

東北ブロック 共に学び、生きる共生社会コンファレンス 分科会③

陸前高田市で実践した生涯学習プログラムの内容

日 程：2021年11月6日～2021年12月25日の間で計9日間実施

テーマ：ノーマライゼーションという言葉の知らないまちが取り組む障害者等の学びの場づくり

実施主体：株式会社日経BP

協力団体：障害者就労継続支援事業所あすなろホーム、陸前高田市ユニバーサル就労支援センター

対 象：協力団体が支援している障害当事者

参加者：延べ計60人

連携組織：陸前高田市、陸前高田市SDGs推進プラットフォーム

障害者就労継続支援事業所あすなろホームを対象にした生涯学習プログラムの内容

①ドミノを使ってピタゴラススイッチ(講師：田中大樹氏)※11/6、20、12/4、25の計4回実施

②私もできるギター演奏(講師：石井優太氏)※11/6、12/4、22、25の計4回実施

③気軽に合奏キーボード(講師：あすなろホームの戸羽氏)※11/6、12/4、25の計3回実施

④絵葉書を描こう(講師：小松野麻実氏)※11/20の計1回実施

⑤スライドカーリングとバトミントンを体験(講師：千葉育子氏、村上かなえ氏)※11/20実施

⑥ストレッチ・ウォーキングで健康づくり(講師：菊池純一氏、酒井菜穂子氏)※11/20実施

⑦手話ダンス「翼をください」ほか(講師：社会福祉協議会佐藤尚子事務局長)※11/20実施

陸前高田市ユニバーサル就労支援センターを対象にした就労体験プログラム内容

⑧DIYでできる建物内装改修(講師：多田工房の多田繁喜氏)※11/22、12/3の計2回実施

⑨PCを使った動画・写真編集講座(講師：トナリノの清水健太氏)※12/17(2回)、24の計3回実施

①ドミノを使ってピタゴラススイッチ(講師：田中大樹氏)※11/6、20、12/4、25の計4回実施



②私もできるギター演奏(講師：石井優太氏)※11/6、12/4、22、25の計4回実施



③気軽に合奏キーボード(講師：あすなろホームの戸羽氏)※11/6、12/4、25の計3回実施



④絵葉書を描こう(講師：小松野麻実氏)
※11/20の計1回実施



⑦手話ダンス「翼をください」ほか(講師：社会福祉協議会佐藤尚子事務局長)※11/20実施



⑤スライドカーリングとバドミントンを体験(講師：千葉育子氏、村上かなえ氏)※11/20実施



①②③音楽チームとドミノチームのクリスマス合同発表会※12/25実施



⑧DIYでできる建物内装改修(講師：多田工房の多田繁喜氏)※ 11/22、12/3の計2回実施



⑧DIYでできる建物内装改修(講師：多田工房の多田繁喜氏)※ 11/22、12/3の計2回実施



⑨PCを使った動画・写真編集講座(講師：トナリノの清水健太氏)※12/17、24で計3回実施



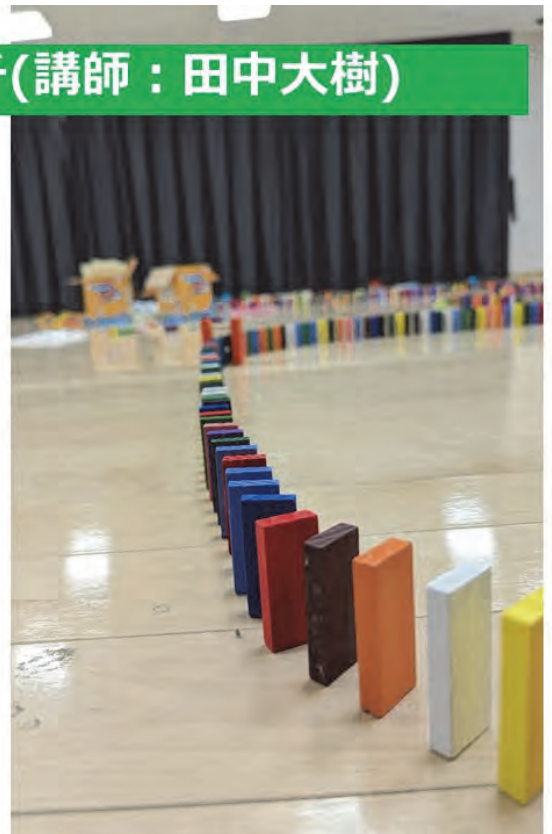
ドミノを使ってピタゴラススイッチ(講師：田中大樹)

【始める前に思ったこと】

- ・ドミノが小さいのではないかと
- ・最終目標「みんなで1つの作品を作り上げる」なんてできるのか

【1回目を終えての感想】

- ・小さくても懸命に立てている
- ・自分が作る形のイメージが湧くように見本があった方がいいのでは
- ・完成するまでに倒れてしまい、「倒す」という経験ができない



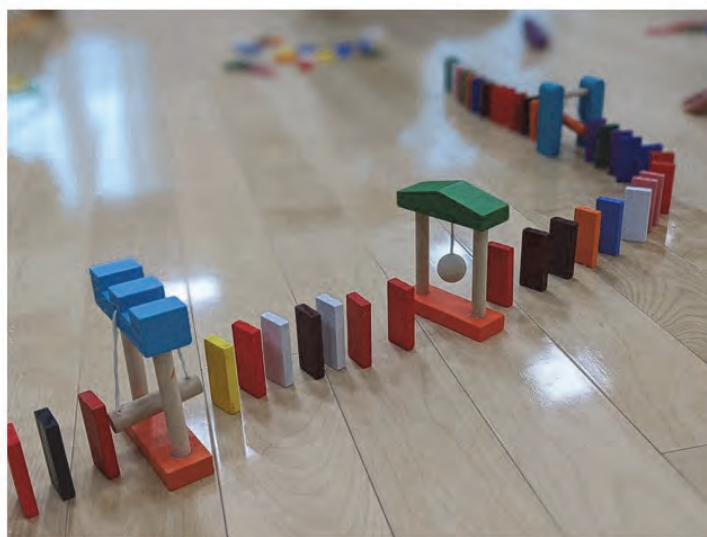
第2回の様子

- ・見本を見せることで、「立てて倒れる」だけではなく、ドミノで表現ということを知る
- ・ギミックを使い、鈴を鳴らすという「目的」に向けたドミノを行う



第2回の気づき

- ・ドミノで表現する前にカーブさせることが難しい
- ・ギミックがあることで遊び方の幅が生まれ、各々楽しめていた
- ・1回目よりも倒れずに、完成してから「倒すよ」と言って倒す人が増えた



第3回の様子

- ・ドミノで作る形をイメージするために、モールを使用する
- ・モールは、カーブが苦手な方のガイドとしても使用する
- ・初回から用意していたストッパーを使います
- ・真っ直ぐ作っては壊す、形を表現する、2時間を目一杯使ってただ立てていく、ギミックをたくさん使う、など各々の楽しみ方が確立してくる



第3回の気づき

- ・モールがあることで、カーブが苦手だった方の楽しみ方の幅が広がった
- ・それぞれの個性（真っすぐが得意、立て続けたい）を楽しむのでいいのではないかと感じる
- ・最終目標に向けた「みんなで1つの作品を作り上げる」は、こちら側が勝手に用意したエンタメなのではないか



第4回の様子

- ・最初に、今日の目標は「みんなで1つの作品を作って倒したい」ことを伝える（形やサイズの制約はなし）
- ・それぞれがやりたいように立てていき、その間を職員・講師で繋げていく
- ・「共同」が自然と生まれていく
- ・完成まであと少しのところ、6割のドミノが倒れてしまう（発表の時間まで残り15分ほど）

その結果…



第4回の気づき

- ・ みんなで作った作品が無事に全部倒れた！（ぶっつけ本番の一発勝負）
- ・ 最後の方に6割が倒れてしまったことで、一致団結して完成を目指すことができた（最初に伝えておいてよかった）
- ・ 4回を経て体の使い方を学習していた（立てにくい時は自分の位置を移動する）
- ・ 「頑張らせてさせる」ことを考えるより、それぞれの個性を活かしてできること・強みをサポートしていくことで、楽しくステップアップできることを学んだ





あすなろホームを利用するすべての人に
お日さまと愛情が燦々(さんさん)とふりそそくようにという願いをこめて。

あすなろホームについて

多機能事業所 あすなろホーム
(就労継続支援B型事業・就労移行支援事業)

事業の目的

利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、通常の事業所に雇用されることが困難な利用者に対して就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行うことを目的とする。

設置運営主体	社会福祉法人 燦々会(さんさんかい)
法人認可取得	平成15年9月18日
認可事業	第2種社会福祉事業
理事長	佐藤圭子
事業開始年月日	平成18年10月1日
職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員4名、職業指導員11名、就労支援員1名、目標工賃達成指導員1名、運転手2名
利用定員	就労継続支援B型事業 27名 / 就労移行支援事業 6名
活動科目	(1) 環境保全製品科 イーエムほかしの製造販売及びEM商品の販売。 (2) 菓子製造科 手作りのお菓子の製造販売を行う。 (3) オリジナル製品科 海産物の加工販売を行う。 (4) 受託加工科 民間事業所などから委託された作業を行う。 (5) 施設外就労科 民間事業所などから委託された作業を行う。
営業日	原則として月曜日から土曜日まで。イベント参加などで日曜・祝日も営業することがある。(振替休日あり)
営業時間	8:30から17:30まで(サービス提供時間は9:00から16:00まで)

日経BPの依頼で令和3年度の文部科学省の障がい者の生涯学習モデル事業を受け、今日が初日となりました。学校を卒業すると学ぶ機会が少なくなってしまうますが、障がいのある人たちは学べる情報や機会が更に少なくなります。障がいがあっても向上心のある人は多いものの、教えてくれる人、時間、会場を確保してそういう人たちに応えることは課題になっていました。まだ都会なら情報や教室もありそうですが、ここは陸前高田市、田舎です。機会も情報も都会に比べとても少ないです。



よく、「ギターを教えてください」と言われます。でも、働くための通所施設、施設行事でもない限り作業の時間に教えるわけにはいきません。一時期、お昼時間に教えたことがありましたが、仕事の性質上出たり入ったりが多くあり継続することは難しく一月ほどで終了となりました。続けるって難しいですね。今回はこの事業でギター、キーボード、ドミノを教えていただくほか、11月末のクラブ活動に外部講師を派遣していただきます。



教室が始まるとみなさんキラキラした目で講師を出迎えています。今日は、1日目だったのでまだ初歩的なところまでしか教えてもらえませんでした。が、「〇〇が出来るようになった」と喜んで話していた方もいました。皆さんの事を見て、学ぶことができることは当たり前のご様子ですが、本当はとても恵まれてそういう事ができるのだと感じました。



2022.1.15 共生社会コンファレンス

陸前高田市ユニバーサル就労支援センター 生涯学習プログラムの取り組み報告



公益財団法人共生地域創造財団 陸前高田事業統括
陸前高田市ユニバーサル就労支援センター センター長
石井優太



1



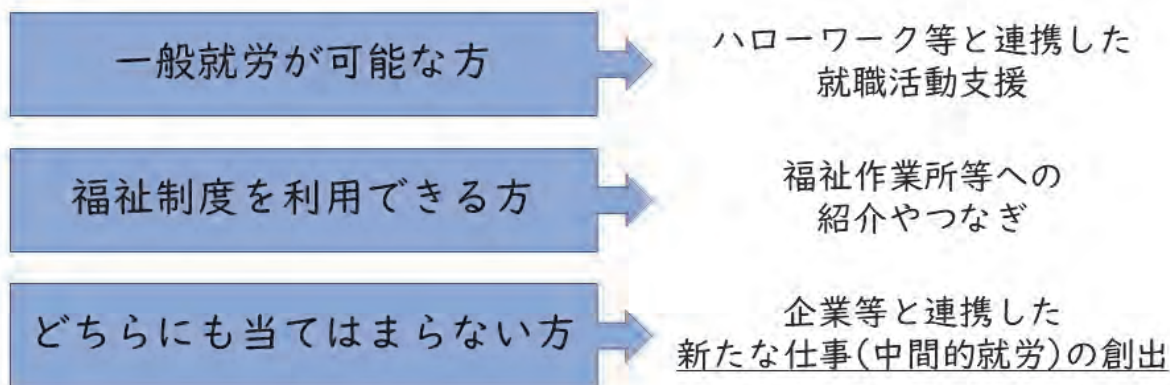
ユニバーサル就労支援センターの紹介

1

センターの設置目的（2019年6月開所）



働きづらさを抱えるすべての方々に対し、
社会との関係性を回復し、その人なりの
働き方を実現することを支援します。

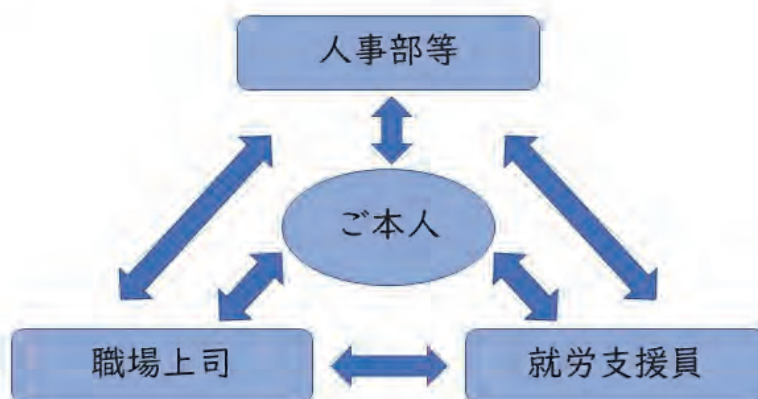


特に引きこもりや、過去に人との関わりで傷を負った方など
既存の支援制度の枠内に収まらない方が主対象です。

ユニバーサル就労（中間的就労）とは



企業等と協力し、一般就労と福祉的就労のどちらでもない、
中間的な働き方を創り出します。



仕事に人を当てはめるのではなく、職場と支援員が協力し、
その人に合う仕事の仕方を探ります。

センターの支援メニュー

インテーク

- 来所していただく以外に、希望に応じ、自宅やその他の場所でも話を伺います。
- ご本人だけでなく、ご家族や関係者の方からの相談にも応じます。

プラン作成・リプラン

- 話を伺い、こういった働き方を指すのか、そのために何が課題となっているかを考えます。
- 職業適性検査なども活用し、ニーズ理解を深めプランを作成します。定期的に振り返って、プランを見直します。

グループワーク

- 週に1~2回のグループワークで苦手の克服を図ります。
- 支援初期においては、センターと其中的人間関係に慣れる場としての効果もあります。

就労体験・中間的就労・定着支援

- 職場での、見学や体験（無償・有償）を通じて、実際の就労の場での実践的な支援をします。
- 双方が合意する場合は、訓練に留まらず、そのまま雇用契約に発展します。その後も定着支援を継続します。

5

グループワーク

予定を決め外出する習慣を身につけることや、対人関係等の苦手意識を克服することを目的にワークを行っています。



ソーシャル・スキル・トレーニング



ひまわりの種植え



パステル・アート

6

グループワークの副産物



椿葉採取の作業後の寄り道も利用者間の関係を深める上で重要な機会となっています。

椿葉の採取・洗浄作業

最も多くの方が参加しているグループワークです。地元の新たな特産品「椿茶」の原料となる椿の葉を手作業で拭き、成果に応じた作業料をお渡ししています。



それぞれのスタンスで作業に取り組むことができ、自然なコミュニケーションが生まれています。

グループワーク参加者アンケートより



30代男性

- ・人と話すのが苦手だった。ここではいい人に恵まれてよかった。よい雰囲気でも過ごせている。
- ・やってみないと始まらない、と思えるようになり、働く意欲が持てた。

50代女性

- ・今の雰囲気はとても良いです。支援員だけでなく、参加している皆さんとも良い関係が出来ている。
- ・仕事を求めるきっかけになった。これからいろんな体験をして自分の向き不向きを知りたい。

※初めは賃金目的で参加する方が多いが、人間関係に慣れ、次のステップに進む土台形成に有効な場となっている。

9

就労体験



地元の企業や団体に協力を呼びかけ、中間的就労・就労体験の受入先や、体験できる仕事の種類を広げています。

製造や清掃、一次産業といった一般的な業務の他、様々な形で人や地域と関わる団体からもご協力いただいています。



桜の樹の管理作業



視覚障がい者の外出同行支援
(ガイドヘルパー)

10

センターの活動実績 (2019/6～2021/8)



相談件数	107件	本人相談以外に、家族・近隣・関係機関からの相談含む
登録人数	82名	本人同意のもとでセンターに登録した人数
一般就労人数	22名	相談を経てセンターが仲介しない形で就職した人数
福祉就労人数	4名	相談を経て障害者就労施設の利用に至った人数
中間的就労人数		センターが仲介する形での就労 (以下、形態別内訳)
雇用型	10名	雇用契約 (短期契約含む)
委託型	12名	作業量に応じて報酬が発生する継続的な就労
内職型	45名	自宅や任意の場所でできる有償の継続的な就労
単発型	8名	契約を伴わず、謝金等が発生する形の単発的な就労
無償型	26名	報酬が発生しない形の就労体験

11

センターの支援コンセプト



包括的な支援

- 就労のみならず、その手前や周辺のお課題に対しても並行して支援する。
- 金銭管理、健康管理などの課題がある場合、就労を押し進めることが却って悪影響を及ぼす可能性もある。その場合は他機関と連携して包括的な体制を組んで支援にあたる。

地域連携による支援

- センター内だけで支援を完結させず、地域の様々な社会資源を活用して支援に取り組む。また、多様な就労機会を提供するため、企業・生産者・NPO等からも協力を得る。

関係性の支援

- 相談者が、支援員や他の相談者との関わりの中で「居場所」を確保することを大切にする。また、その居場所を地域の中に広げていくことを応援する。
- 「就職」は支援の目的ではなく結果と捉える。安心できる関係性を広げた先に、「職場」という居場所を得られるものと考えている。

出向く支援

- 相談を待つだけでなく、課題や悩みを抱える方を探し出して接触機会を探る。

12

生涯学習プログラムでの取り組み

13

DIYで出来る建物内装改修



- 多田工房（多田繁喜氏）を講師に、壁への漆喰塗り作業を実施
- 第一回（11/22）：10名が参加
⇒清掃、養生・マスキング、下地処理を実施
- 第二回（12/3）：5名が参加
⇒下塗り作業、上塗り（仕上げ）作業を実施

14

PCを使った動画編集講座



- トナリノ（清水健太氏）を講師に、動画への字幕入れ作業の講習と演習を実施
- 第一回（12/17）
⇒20代女性への個別講習
- 第二回（12/17）
⇒20代男性への個別講習
- 第三回（12/24）
⇒20代女性、20代男性の合同演習および発表

プログラム実施後の展開



- 多田工房より、DIY体験の参加者（執筆業での就労希望者）に対し、ニュースレターの原稿作成を依頼する可能性について検討開始
- トナリノより、動画編集講座の参加者に対し、インタビュー映像の文字起こし作業を依頼する可能性について検討開始

※実施したプログラム内容とは違う部分で、就労につながる可能性が芽生えつつある

プログラムを通して感じたこと



- 意図されたものではない「人と人の出会い」の重要性
- 就労ありき（求人側と求職者）ではない出会いが、結果的に就労につながるきっかけにもなる
- 一般的には10代の時期を逃すと、そういった出会いの機会が極端に減ってしまう
- 成人した後も出会いの機会が確保されることで、その人と社会の可能性が広がる



福祉実験ユニット

COMPANY PROFILE

社名 株式会社ヘラルボニー / HERALBONY Co., Ltd.
 所在地 東京都中央区新富町1丁目2番地(東京営業所あり)
 役員 代表取締役社長 後藤康幸、代表取締役社長 後藤孝幸
 設立 2016年7月24日

CONTACT
 heralbonny.office@gmail.com

自社事業 | 未来言語 (ワークショップ)



未来言語 = **新しいコミュニケーション方法**

音声や文字などの、既存の言語を超えて、未来言語を発明しよう。

「みえない」「きこえない」「はなせない」を体験し、そこで生まれる気づきやエピソードから、未来言語をつくることにチャレンジ!



永野 智明
(DARKROOM) 写真家・グラフィックデザイナー



後藤 翔太
(ヘラルボニー) 取締役



高木 ゆみ
(アライバル) 経営者・デザイナー



高橋 誠介
(Shuffle House) 経営者・デザイナー



吉岡 隆志
(アライバル) 経営者





色盲体験

色がわからない「色盲」や「色覚異常」。

色が見えない障害をもつ人は、普段の生活がどのように見えているのでしょうか。色が見えない障害をもつ人が見えている世界を、ゲームを通して体験してみましょう。

色盲の人は、青と黄色、赤と緑など、特定の色を見分けづらい状態にあります。色盲（より正確には色覚異常）は遺伝的形質であり、女性よりも男性に発生する頻度が高い異常です。失明予防協会によると、日本では男性の全人口の約5%、女性の全人口の約0.4%に色覚異常者がいるといわれています。

赤緑色盲が、色盲の中でも最も一般的なものです。ごくごく稀に、青と黄色の色調を見分ける能力が低くなる遺伝的特性を引き継いでいる人もいます。青黄色盲は、男性と女性の発生率は変わりません。

色が見えないということが不利に感じることもあるかもしれませんが、色が見えない人は物の細部や形状をしっかりと見て判断をしています。健常者が見落としている情報を、色が見えない人の方がしっかりと把握していることがあるかもしれません。

障がいが人の優劣を決めるのではなく、その人の特性や個性であることをみなさんに知って頂ければ幸いです。

視線入力体験

さまざまなテクノロジーが発展する中、それらを医療・福祉分野に応用する試みが注目されています。視線入力訓練ゲームは、重度の障がいを持った子どもたちの可能性を広げています。福祉分野で活用されるテクノロジーを、ゲームを通して体験してみましょう。

テクノロジーは、現代社会に暮らす私たちにとって、欠かせないものです。新しいテクノロジーの登場は、多くの人々の生活を劇的に変えることがあります。

例えば、重い障がいのため体が動かない人、筋肉を動かす機能が失われるALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者さんの生活支援に役立つ、「視線入力」があります。これは画面に表示している文字を見ると、文字が入力できるという技術です。眼球の動きを視線入力装置で受信し、文字を入力します。この技術を使うと、目の動きだけで周囲の人とコミュニケーションを取ることができますし、メールを書いたり、オンラインショップで買い物したりできます。ALSの患者さんの機能の中でも、目の動きは比較的長く残るので、それを活用することは重要です。

便利な視線入力ですが、患者さんが使いこなすようになるには、ある程度の訓練が必要です。そこで、注目されているのが、ゲームソフトを使った訓練です。単に文字を見ていく訓練だと、うまくいかなかった時に、本人も周りの人も落胆しがちですが、ゲームの場合だと「あ、惜しい。次にがんばろう」というように、なごやかな雰囲気です。つらい闘病生活を送る患者さんにとっては、楽しく訓練できることはとても大切なことなのです。